

暫定公開版

IPtalkマニュアル #003

テンプレート前ロール

2014年12月31日版

これは、IPtalk9t マニュアルの暫定公開版です。

下の NCK 会員向け前書きに書いたように、動作確認の手間を NCK の会員にお願いして、IPtalk9t のマニュアルを作成しようと思ったのですが、栗田が書くこと自体に時間を取ることができず「IPtalk9t の全機能」どころか「よく使う機能」の説明でさえ「いつになるか分からない」という状況が続いています。そこで、「機能限定でも役に立つ」という暖かい意見も頂戴していることもあり、書いたマニュアルは、できるだけ暫定でも一般公開したいと考えます。何時の事になるか分かりませんが、最終的には、1 つのマニュアルにまとめたいと考えています。

【使用の制限】

- ・このマニュアルは、個人的な使用に限定します。
- ・このマニュアルの PDF データや印刷物を個人的にサークル、学校、知り合いなどにコピーして渡すの自由です。ただし、再配布は、必ずオリジナルのまま行い、一部のみの配布、修正などは行わないでください。
- ・ホームページなどに掲載して不特定多数に配布することは禁止します。
- ・このマニュアルを講習会で使用する、本やテキストなどに引用するなど、個人的使用を越えた使用を希望する場合は連絡してください。

【お願い】

今後のために「IPtalk のマニュアルをどのような方が使っているか？」を知りたいので、このマニュアルを手に入れた方は「①名前②所属、又は、県名③入手した方法」をメールしていただくとありがたいです。

【連絡先】 office@nck.or.jp

2014年12月31日 栗田

以下は、2012年3月「NCK 会員向けマニュアル」の前書き

このマニュアルは、NCK 会員の会員専用です。NCK 会員が、サークル、学校、知り合いなどにコピーして渡すの自由です。ただし、もらった非会員が、さらにコピーすることはできません。ホームページなどに掲載することもご遠慮ください。

みなさんもお存じのように、マニュアルを書くのは、膨大な労力がかかります。

パソコン環境が、XP か Vista か Windows7 であるかとか、ファイアウォールとか、どんなソフトがインストールされているかなど、IPtalk の動作に影響があるいろいろなことを考慮する必要があります。また、IPtalk の各機能は、表示設定によって動作が異なる場合があるため、その人が「いつも使っている表示設定」での操作が分かるように記述する必要があります。現在、500 項目くらいの表示設定があるため、この組み合わせは気が遠くなります。

そもそも、IPtalk は、10 年以上も、その時々で機能追加を繰り返して来たので、プログラム自体が、まるで建て増しを繰り返した老舗温泉旅館の廊下のような迷路になっていて、正確に書くために、プログラムを当たったり、例外的な動作を調べたりするだけで膨大な労力がかかってしまう方の問題が大きいかもしれません。

また、マニュアルというからには、IPtalk の機能を一通りは網羅したいと思うのですが、IPtalk は現在、ウィンドウを 37 個持っていて、実際は、1 つのプログラムというよりも、37 個のプログラムの集合体と言った方が良くもしいない状況も問題です。

それに、せっかく書くのであれば、初心者の人だけではなく、パソコンに詳しい、長年 IPtalk を利用して来た人にも「へえ～、そうだったんだ～」と言って欲しいという気持ちもあって、ますますハードルを高くしてしまい、この数年、マニュアルを作成する必要性は感じていながら、IPtalk のマニュアルは、IPtalk9i、9s シリーズを最後に手が付きませんでした。

しかし、IPtalk9t シリーズができて、5 年が経とうとしています。

そこで、発想を変えて、一つの機能限定のマニュアルを栗田の記憶と簡単な動作確認で作成し、NCK 会員に限定配布し、例外的な動作や気づかなかった項目は、会員のみさんから教えてもらうことで、完成度を上げる方法でマニュアルを作りたいと考えました。

将来的には、これらのマニュアルを集めて、NCK から一般公開できると良いと思っています。

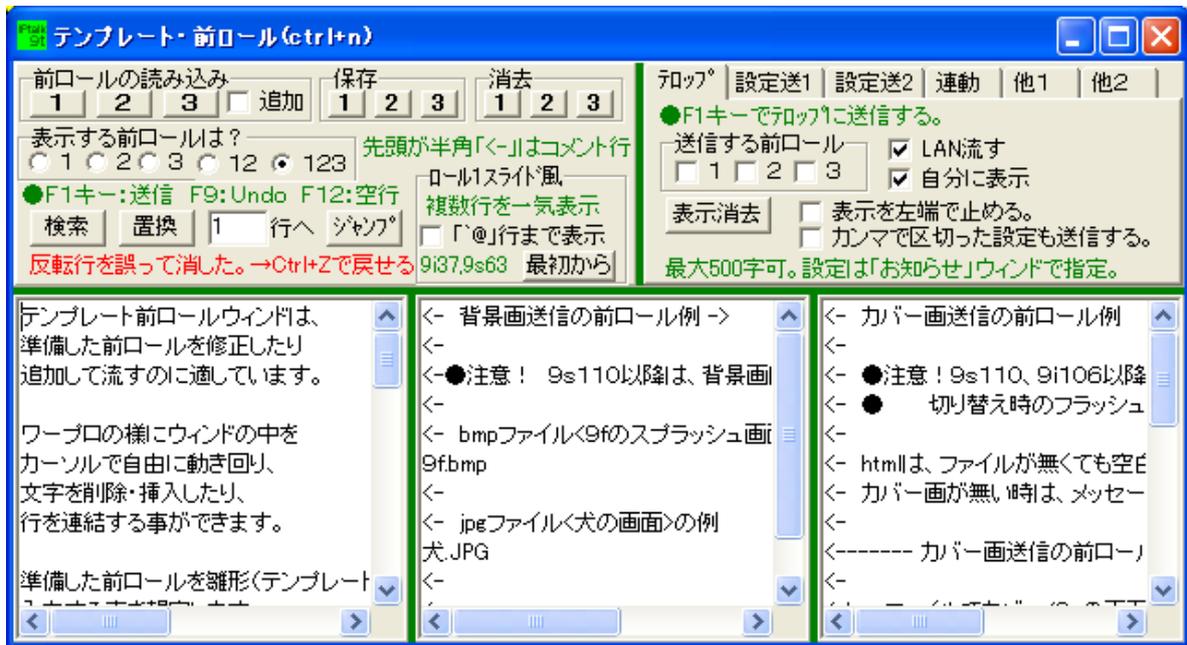
みなさんのご協力をお願い致します。

2012 年 3 月 栗田

【履歴】

2012 年 3 月 4 日 NCK 会員向け初版

2014 年 12 月 31 日 暫定一般公開



【概要】

「補助W」ページの「前ロール」の「テンプレート前ロールウインド」ボタンを押すと「テンプレート前ロールウインド」が開きます。

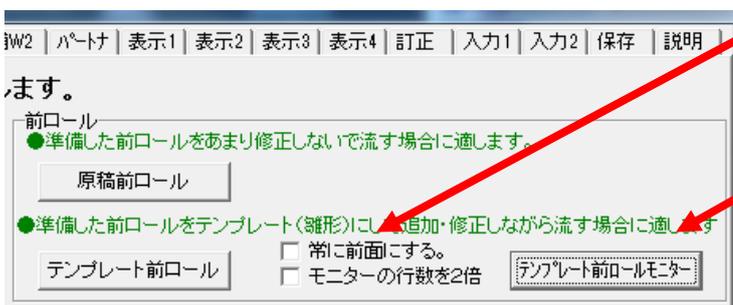
テンプレート前ロールウインドは、準備した前ロールを修正したり追加して流すのに適しています。ワープロの様にウインドの中をカーソルで自由に動き回り、文字を削除・挿入したり、行を連結する事ができます。

準備した前ロールを雛形（テンプレート）にして入力する事を想定します。Fキーで登録できる文字では不足する場合にも利用する事ができると思います。

F1キーを押すとカーソル（キャレット）のある行が表示部に送信されます。この時、カーソルは自動的に次の行の先頭に移動し、ウインドの文は1行スクロールします。送信した文はそのまま残ります。

エンターなどを押した場合は、行が改行されます。「カーソルより前を送る」のチェックを入れておくと、カーソル（キャレット）より前だけを表示部に送信します。

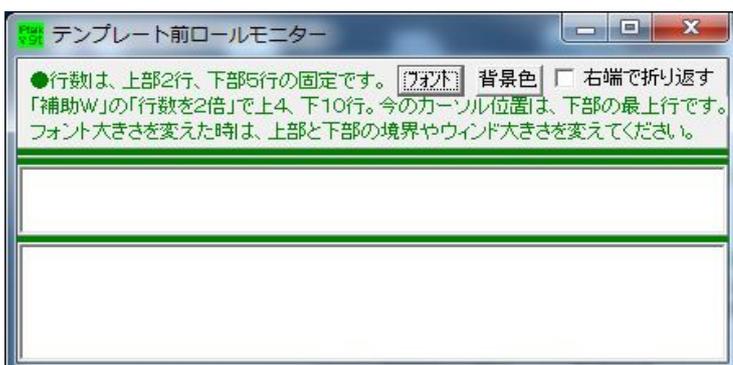
表示のショートカットキーは、ctrl+「n」です。



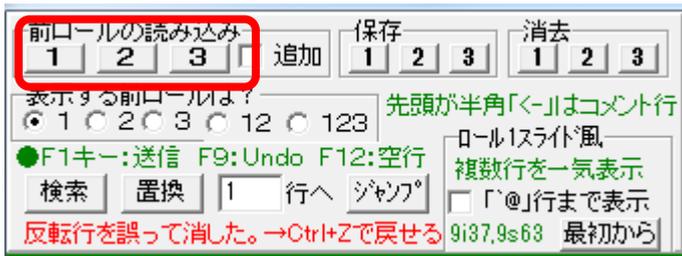
「常に全面にする」のチェックは、メインウインドにあります。

・関連するウインドに「テンプレート前ロールモニター」があります。「テンプレート前ロールモニター」ボタンを押すと現れます。

連動指定した他の IPtalk のテンプレート前ロールのスクロールを表示させることができます。



【「前ロールの読込」の「1」「2」「3」のボタン】



- ・前ロールは3つあって、「1」「2」「3」と呼びます。「原稿前ロール」ウィンドでは「A」「B」「C」です。
- ・「前ロールの読込」の「1」「2」「3」のボタンを押すと、テキストファイルを、それぞれの前ロールに読み込みます。「追加」のチェックを入れると、読んである前ロールの後ろに追加して読み込みます。

前ロールをワープロで作る場合は、保存する時に、ファイルの種類で「テキストのみ」を指定します。

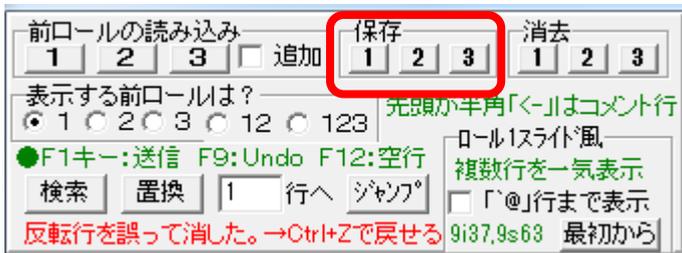
・「テンプレート前ロール」の「読み込み」ボタンを押した時に、20Kバイト以上の場合、読み込んだ文章量のバイト数をメッセージで表示します。これは、Windows95,98,Meの頃、大きな前ロールを読みこむと動作がおかしくなったことがあったためです。今のパソコンでは、問題無いと思いますが、念のため言えば、前ロールで編集追加できる文章量は最大640Kバイト(95, 98, Me)、1.28Mバイト(2000, XP)です。

【「前ロールの読込」の「追加」のチェック】



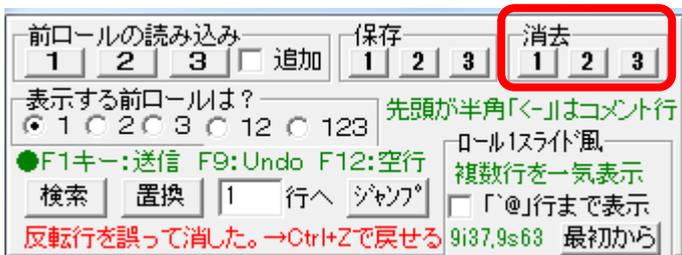
- ・「追加」のチェックは、大きな原稿を手分けして前ロールにした場合、順番に追加しながら読み込んで一つの前ロールにする時に使います。チェックなしの場合は、元の前ロールを消してから読みこみます。

【「保存」ボタン】



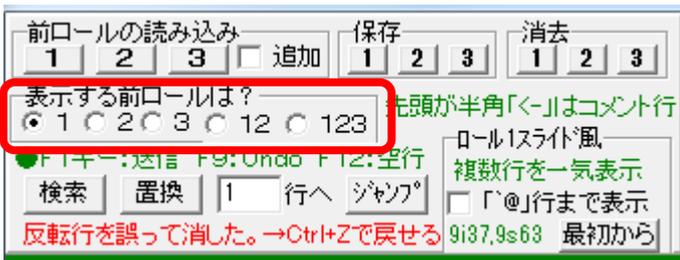
- ・前ロールを保存できます。修正しながら表示した前ロールを保存することができます。

【「消去」ボタン】



- ・前ロールを消去できます。新しい前ロールをメモ帳などを使わずに、直接入力して作るために追加しました。

【「表示する前ロールは？」の「1」、「2」、「3」、「1 2」、「1 2 3」のラジオボタン】

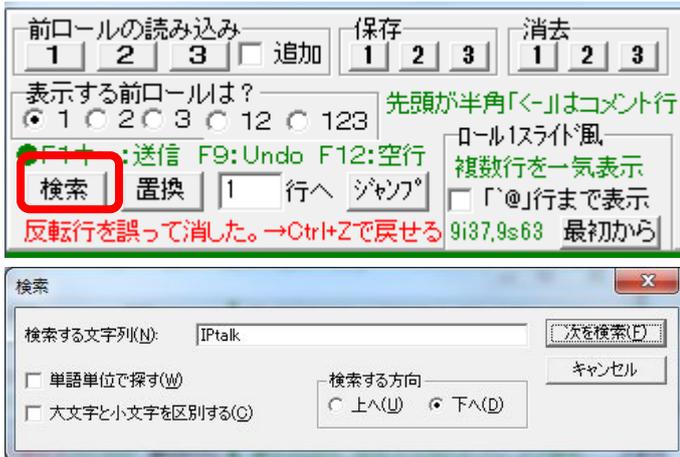


・「1」、「2」、「3」は、それぞれの前ロールを単独で表示します。

「1 2」は、1と2を同時に表示します。

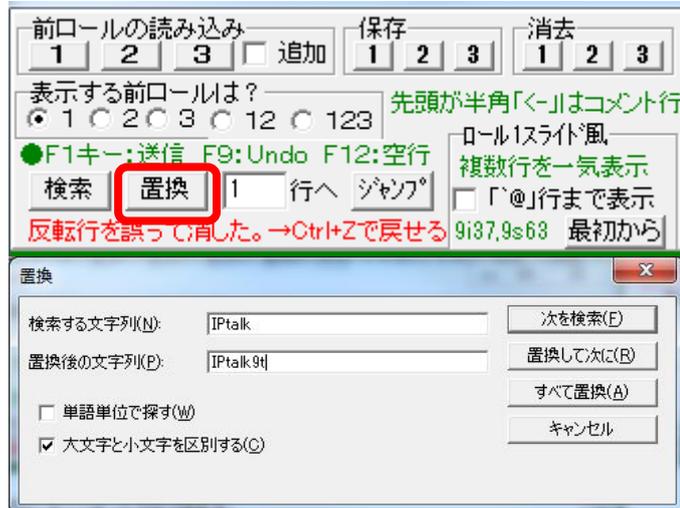
「1 2 3」は、1と2と3を同時に表示します。

【「検索」ボタン】



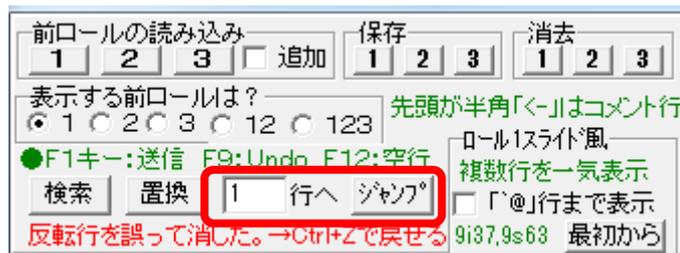
- ・「検索」ボタンを押すと、「検索」ウィンドが現れます。
- ・「市長挨拶」とか「原稿⑤」などというタイトルを前ロール付けておき、それを検索して、流す原稿をすばやく探すというような使い方をします。
- ・検索ウィンドは、表示したままにして前ロールを流すなどの作業を続けることができます。

【「置換」ボタン】



- ・「置換」ボタンを押すと、「置換」ウィンドが現れます。
- ・前ロールを修正する時に使うことを想定して作りましたが、実際は、ワープロやメモ帳で修正して、読み込む方がミスがなくて良いと思います。

【「ジャンプ」ボタン】



- ・「ジャンプ行」枠に行数を入れて、「ジャンプ」ボタンを押すと、カーソル(キャレット)のある前ロールの表示行数をジャンプします。
- ・指定の行を範囲指定して反転表示し、前ロールウィンドの最上部にします。そのまま「Enter」すると反転した行が「改行」で置き換わってしまうので注意して

ください。

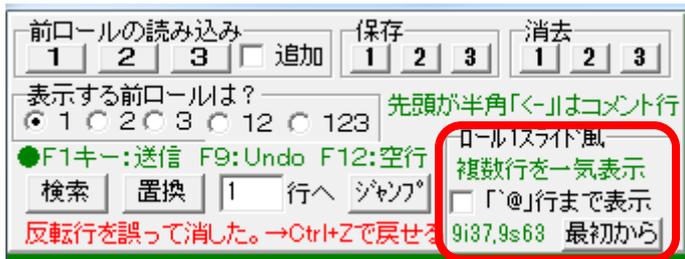
【「検索」「置換」「ジャンプ」ボタンの注意】

<注意1> 検索文字やジャンプ先の行を反転表示する。そのままEnterすると消えてしまうので注意すること。誤って消した場合は、「Ctrl+z」で戻すことができる。

<注意2> 「大文字と小文字を区別する」のチェックを外すと、全角と半角を区別せず検索するが、置き換える文字数は「検索する文字列」で計算するので「置換」がうまくいなくなる。

<注意3> 検索・置換・ジャンプする時は、前ロールの表示は1つのみにする必要があります。(どの前ロールを対象にするか判らないため)

【「ロール1 スライド風」の「\@」行で表示」と「最初から」ボタン】



・「\@」行で表示」のチェックを入れると、スライド前ロールの様に複数行を一気に表示することができます。

・普通に前ロールを作り、F1キーで前ロールを送ります。表示させたい所に半角で「\@」（バックコート＋アットマーク）という行を入れておき、F1キーで送信するとそれまで送信した行が一気に表示されます。

・この機能は、前ロール1の行を表示部に送信せず、他のパソコンの「送」ボタン修正の受信バッファに送信し、「\@」行で「送」ボタン修正時と同様な一気表示を指示しています。「最初から」ボタンは、「送」ボタン修正の受信バッファをクリアする指示を送ります。

最初にこの機能を作った時は、F1キーで一行ずつ表示する行を送信し、「\@」行で一気に入るという操作をしていました。その後、「\@」行で表示」のチェックが入っている時にF1キーを押すと「\@」行まで一気に送信する動作に変更したため、9tシリーズでは、「最初から」ボタンは意味がなくなっています。9i37など頃との互換性のために残っています。

最初にこの機能を作った時は、F1キーで一行ずつ表示する行を送信し、「\@」行で一気に入るという操作をしていました。その後、「\@」行で表示」のチェックが入っている時にF1キーを押すと「\@」行まで一気に送信する動作に変更したため、9tシリーズでは、「最初から」ボタンは意味がなくなっています。9i37など頃との互換性のために残っています。

<注意>

9 t シリーズは、表示を消去して上詰めで一気に入ります。

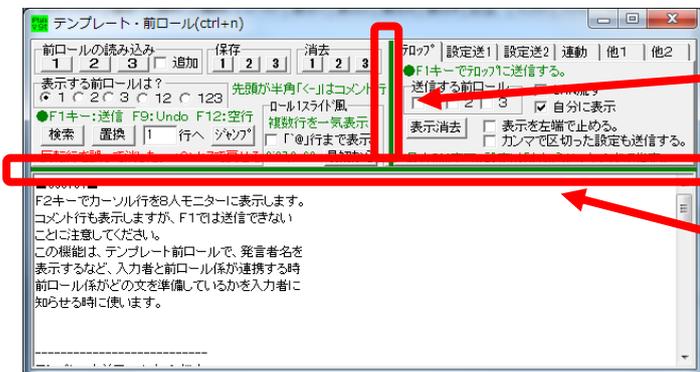
9 s 6 3 以降は、表示を消去して上詰めで一気に入ります。

9 i 3 7 以降は、下に追記される形で一気に入ります。

9 s 6 2 以前と 9 i 3 6 以前、9 h、9 g は表示しません。

「ロール1 スライド風」の前ロールを送信すると全ての I P t a l k で U n d o が初期化されます。

【緑の境界(スプリッター)の移動】



・スプリッターの位置は、設定保存できます。

・操作指定部の縦の緑の境界は、マウスでつまんで動かすことができます

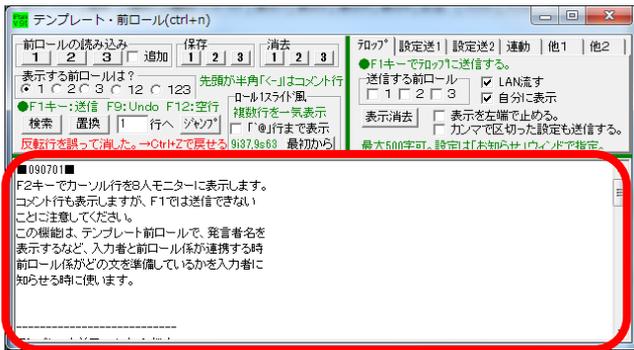
・上の操作指定部と下のテンプレート部との緑の境界は、マウスでつまんで動かす事ができます。一番上まで移動すると、ウィンドはテンプレート部のみになります。

【テンプレート部の緑の境界(スプリッター)の移動】



・3つの前ロールの間にスプリッタを動かすと、幅を自由に調整できます。
前ロール1の幅を大きくする時は、前ロール2の幅を小さくしてから幅を大きくしてください。

【テンプレート部のキー操作】



・ F 1 キー

F 1 キーを押すとカーソル (キャレット) のある行が表示部に送信されます。この時、カーソルは自動的に次の行の先頭に移動し、ウィンドの文は1行スクロールします。送信した文はそのまま残ります。

・ コメント行 「<-」

行の初めが半角の「<-」 始まる行はF 1 キーを押してもコメント行として表示に送らず、カーソルが次の行に移動

する。テロップ送信を指定した場合も同じ。

コメント行は、「<------ 開会式、県知事の挨拶 ----->」というような使い方を想定しています。

・ エンターキー

エンターなどを押した場合は、行が改行されます。

・「他 1」 ページの「カーソルより前を送る」のチェックを入れておくと、カーソル (キャレット) より前だけを表示部に送信します。(詳細は後述する。)

・ F 9 で U n d o できます

「前ロールテンプレート」ウィンドでは、F 9 キーでU n d o できます。この時、「送った部分は消す」のチェックが入っていると、カーソルの位置にU n d o した文字が挿入されます。チェックが入っていない時は、表示部から消えるだけです。U n d o は、入力部と同じ5回までです。

・ F 1 2 で空行を送ることができます。

F 1 2 キーで空行を送る事ができます。使い方としては、「空行のみ改行」にしていた場合、F 1 2 で、行を改行します。

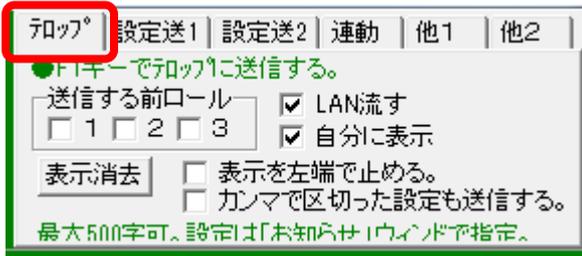
・ F 2 キーを押すと、カーソル (キャレット) のある行を、入力部に転送する。

これにより、メンバーの8人モニターに表示して、次に流す文を示すことができる。コメント行(「<-」行)も表示するが、F 1 では送信できないことに注意してください。この機能は、テンプレート前ロールで、発言者名を表示するなど、入力者と前ロール係が連携する時前ロール係がどの文を準備しているかを入力者に知らせる時に使います。

・「他 2」 ページの「F 1 で空行も送る」の「文+空行」チェックを入れるとF 1 で送った文の後に空行を追加する。

「メイン」ウィンドの「表示 1」ページの「改行の表示方法」の「空行のみ改行」チェックを入れた時に、前ロールの一行を一行ずつ改行して表示できる。ただし、F1 を押した行が「空行」の場合は、余分な空行は入れない。

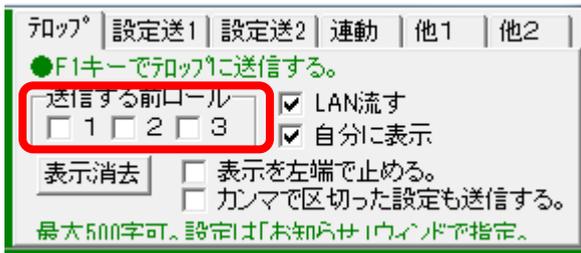
【「テロップ」 ページ】



・前ロールをテロップに流すことができます。

「地震です。落ち着いてください。」など、文を準備しておけば、素早くテロップで流すことができます。テロップに流せる文字数は、全角500文字までです。テロップの設定を変更する場合は、テロップウィンドで指定しておき、「設定も送信」のチェックを入れておく。

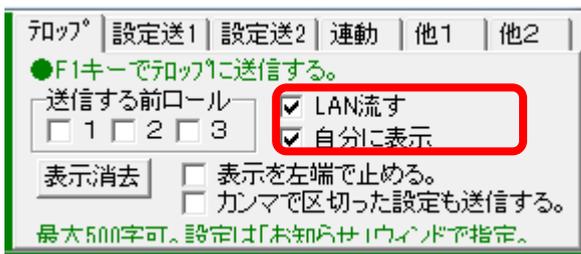
【「送信する前ロール」】



・テロップで送信する前ロールを選びます。

チェックを入れた前ロールで F1 キーを押すと、その行がテロップに送信されます。

【「LAN に流す」、「自分に表示」のチェック】

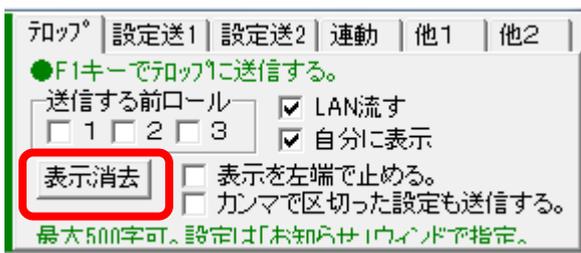


・「LAN に流す」のチェックを入れると送信します。「自分に表示」のチェックを入れるとテロップを自分に表示します。

両方とも入れないと、何も表示しなくなります。

テストする時は、「自分に表示」のチェックだけ入れます。

【「表示消去」のボタン】



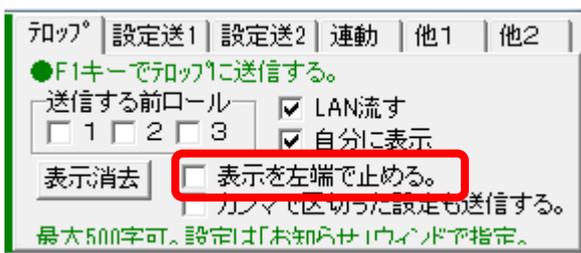
・流したテロップを途中で消したり、左端で止めて表示しているテロップを消すことができる。

・「表示消去」ボタンを押した時は、自動的に「お知らせ」ウィンドの「送信」ページの「表示終了時消す」のチェックが入る

・「表示消去」ボタンを押したり、テロップをF1キーで流したりすると、自動的に「表示終了時設定画面に戻る」のチェック

が外れ。「表示終了後設定画面に戻る」のチェックを外すのは、消す時にチラツキが出たり、テロップを流した後に設定画面が出ないようにするため。

【「左端で止める」のチェック】



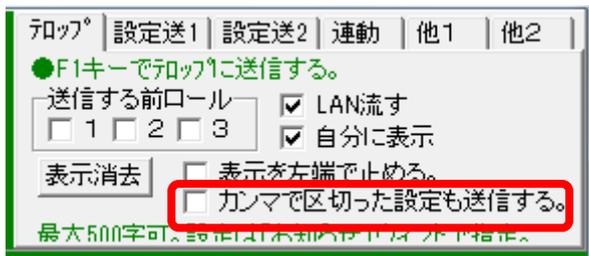
・チェックを入れて、テロップを流すと、表示が左端で止まる。

テロップの内容を読む時間が経過したら「表示消去」ボタンを押す。

・チェックを入れてF1キーを押すと、「お知らせ」ウィンドの「スクロールを左端で止める」のチェックが入り、「表示後、元の位置に戻る」「表示終了後消す」のチェックが外れる。チェッ

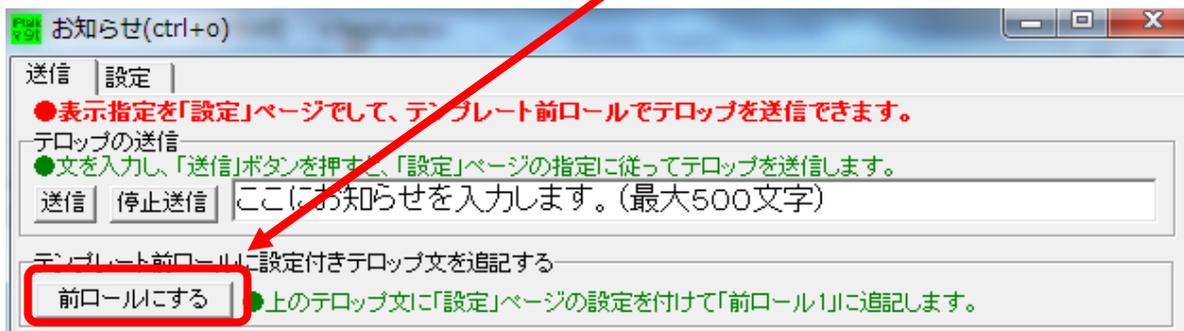
クを外してF1キーを押すと、「お知らせ」ウィンドの「スクロールを左端で止める」のチェックが外れ、「表示終了後消す」のチェックが入る。（「表示後、元の位置に戻る」のチェックは変化しない。）

【「カンマで区切った設定も送信する」のチェック】



- ・チェックを入れると「設定付テロップ文」を送信する。「設定付テロップ文」は、「お知らせ」ウィンドの「設定」ページの設定をカンマ区切りでテロップ文の後に追加した物です。フォントや背景色、スクロール速度などを指定することができます。

- ・「設定付テロップ文」は、「お知らせ」ウィンドの「前ロールにする」ボタンを押して作ります。ボタンを押すと、「前ロール1」に追記されます。



以下が、上の文で「前ロールにする」ボタンを押した時に「前ロール1」に追記された「設定付テロップ文」

```
ここに お知らせ を 入 力 し ま す 。 ( 最 大 5 0 0 文 字 ) ,500:100,501:640,502:0,503:0,505:true,518:true,519:true,520:true,521:false,522:true,523:true,524:false,506:false,507:true,508:0,509:50,510:3,511:MS Pゴシック,512:-2147483640,513:36,514:16777215,515:!fsbold,516:!fsItalic,517:!fsUnderline
```

【「設定送1」ページ】



- ・「設定送1」ページは、「設定送信ウィンド」の「背景画」と「画カバー」「htmlでカバー」の機能を「テンプレート前ロール」ウィンドで簡単に使えるように作りました。

- ・「設定送信ウィンド」のこの機能は、メインウィンドの「表示2」ページの「デスクトップをカバー」と「背景画のビットマップ」を遠隔操作するものです。

- ・「テンプレート前ロール」のこの機能を上手に使うためには、まず「表示2」ページの機能を理解することを勧めます。
- ・遠隔操作するIPTalkは、パートナーです。

【背景画を送信】



- ・「画を送信」のチェックを入れると、「ロール2」の画像ファイル名をパートナーのIPTalkに送信します。「ロール2」であることに注意してください。

受信したIPTalkは、「表示2」ページの「背景のビットマップ」の「背景1」に画像ファイルを読み込みます。この時、「背景画表示」のチェックが入っていれば、(枠なしスムーズ画面の時)表示部の背景画として

表示されます。

- ・ファイル名のみを送信します。受信する側は、事前に画像ファイルをIPTalkの実行ファイルがあるのと同じフォルダーに

置いておく必要があります。画像ファイルは、ビットマップ(*.bmp)または、JPG(*.jpg)です。

・「on」「off」ボタンを押すと、パートナーの IPtalk の「表示 2」ページの「背景のビットマップ」の「背景表示」のチェックが入り切りします。チェックが外れれば、通常背景表示になります。

【「デスクトップのカバーを送信」の「画を送信」】



・「画を送信」のチェックを入れると「ロール 3」の画像ファイル名をパートナーの IPtalk に送信します。「ロール 3」であることに注意してください。

受信した IPtalk は、「表示 2」ページの「デスクトップをカバー」の「カバー画」に画像ファイルを読み込みます。この時、「画でカバー(JPEG 可)」のチェックが入っていれば、表示部のカバー画として表示されま

す。

・この機能も、ファイル名のみを送信します。受信する側は、事前に画像ファイルを IPtalk の実行ファイルがあるのと同じフォルダーに置いておく必要があります。画像ファイルは、ビットマップ(*.bmp)または、JPG(*.jpg)です。

・「on」「off」ボタンを押すと、パートナーの IPtalk の「表示 2」ページの「デスクトップをカバー」の「画でカバー(JPEG 可)」のチェックが入り切りします。チェックが外れれば、通常デスクトップが表示されます。

【「デスクトップのカバーを送信」の「html(URL)を送信」】



・「html(URL)を送信」のチェックを入れると「ロール 3」の URL をパートナーの IPtalk に送信します。「ロール 3」であることに注意してください。

・受信した IPtalk は、「表示 2」ページの「デスクトップをカバー」の「URL」枠に、送信された URL をセットします。この時、「URL や html ファイルでカバー」のチェックが入っていれば、表示部のカバー画と

して表示されます。

・URL の場合は、「<http://www.nck.or.jp/>」のように「http://」から記述してください。表示するためには、IPtalk がインターネットと通信する必要があります。

・html ファイルの場合は、ファイル名のみを送信します。受信する側は、事前に画像ファイルを IPtalk の実行ファイルがあるのと同じフォルダーに置いておく必要があります。ブラウザの機能があまり高くないので、アニメーションなどが動作するかは、「表示 2」ページの「html ファイル読み込み」ボタンを押して事前に確認しておくが良いと思います。

・「on」「off」ボタンを押すと、パートナーの IPtalk の「表示 2」ページの「デスクトップをカバー」の「URL や html ファイルでカバー」のチェックが入り切りします。チェックが外れれば、通常デスクトップが表示されます。

【「背景画を送信」「デスクトップのカバーを送信」のヒント】

この機能は、卒業式や結婚式などで良く利用されています。一度、分かっしまえば、それほど難しくはありません。

講習会の依頼で、この機能を説明して欲しいと良く頼まれますが、2 時間程度でマスターできます。ビデオマニュアルもあります。次のページは、講習会で使った簡単な説明資料です。

背景のある字幕の種類

1) テンプレート前ロールウィンドを使う

- 1-1) 背景画と合成
背景画ファイル名を前ロールにしておいて流します。
- 1-2) カバー画と合成
カバー画ファイル名、または、ホームページファイル(html)を前ロールにしておいて流します。

2) その他の方法

- 2-1) デスクトップと合成する
パソコンの操作を説明できる
- 2-2) 他のソフトと合成する
パワーポイントやワードなど
- 2-3) USBカメラと合成する
手話と合成する。

1) テンプレート前ロールウィンド

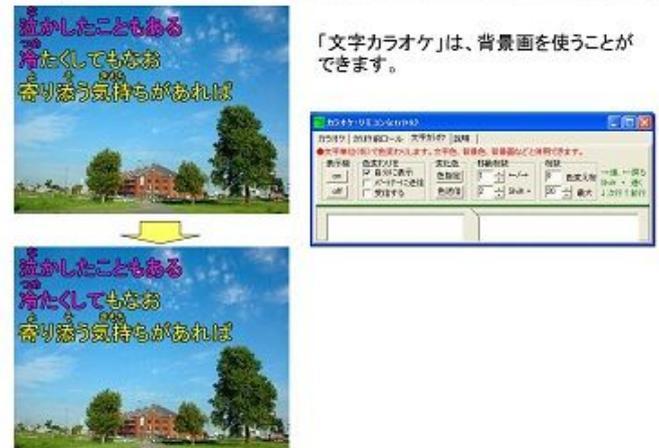
準備した文を訂正しながら流す場合に選んでいます。



1-1) 背景画と合成



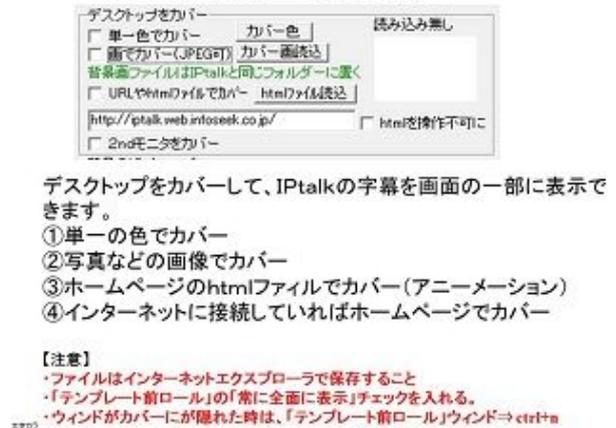
1-1) 背景画と合成(文字カラオケ送信)



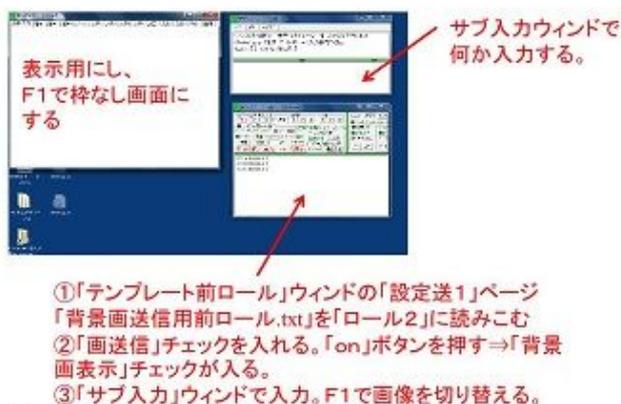
1-2) カバー画と合成



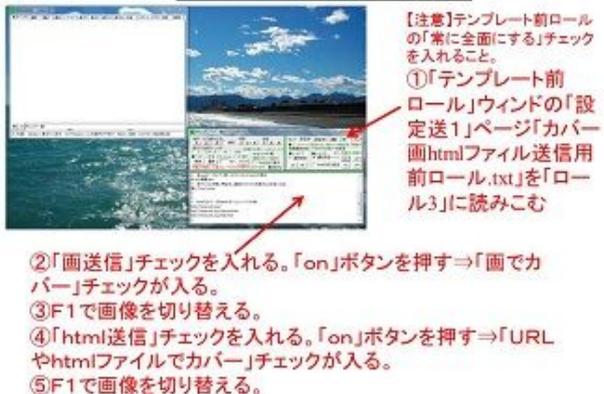
1-2) カバー画と合成



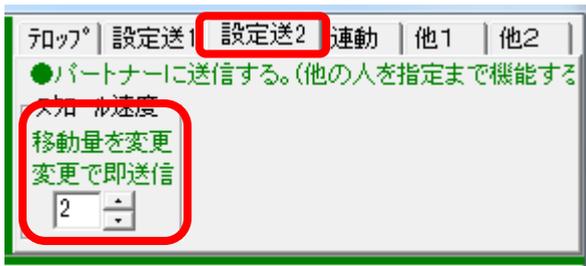
1-1) 背景画と合成



1-2) カバー画と合成



【「設定送 2」ページ】



・「設定送2」ページは、「設定送信ウインド」の「スクロール速度」の機能を「テンプレート前ロール」ウインドで簡単に使えるように作りました。

・「設定送信ウインド」のこの機能は、メインウインドの「表示 2」ページの「スクロール・移動量」を遠隔操作するものです。

・遠隔操作するのは、パートナーの IPtalk です。つまり、表示機とパ

ートナーとなって操作します。

・「スクロール速度」の「移動量」枠をアップダウンで変えると、スクロール速度が変化します。前ロールなどで、話者の話す速度が速いと、表示機のスクロールが間に合わない場合があります。そのような時に、一時的にスクロール速度を速くすると良いと思います。

【「連動」ページ】



・「連動」ページは、他の IPtalk の「テンプレート前ロール」とスクロールを同期させる機能です。

同期させるのは、行番号です。このため、連動させる前ロールは、同じ物を読み込んでおく必要があります。

「モニターに送信」は、「テンプレート前ロールモニター」に送信します。

【「前ロール連動」と「連動行反転」チェック】



・「送」チェックを入れると、下の「ロール」で指定した前ロールのカーソル位置の行番を送信する。送信先は、入力班全員です。

・「受」チェックを入れると、送信されて来た行番に、下の「ロール」で指定した前ロールをスクロールする。

・この時に、「連動行反転」のチェックが入っているとカーソル位置の行を反転表示する。

・このテンプレート前ロールの連動機能は、旧型のgシリーズやhシリーズの「原稿前ロール」とも連動します。

<注意>

「連動」は、スクロールを連動させるだけで、前ロールを修正したことはわかりません。「テンプレート前ロールモニター」も同時に使ってください。

<「連動行反転」の注意>

「連動行反転」を使ったIPtalkは、以下の理由で、事実上、前ロールの監視専用になってしまいます。

「連動行反転」のチェックが入っていると、「テンプレート前ロール」の送信されて来た行番にカーソルが飛んでしまいます。このため、「メインウインド」の入力部での入力はもちろん、「テンプレート前ロール」でF1で送信したり、修正するなどの操作は、非常に難しくなります。「連動」させるだけならカーソルは飛びません。入力や修正などもする時は「連動行反転」のチェックを外してください。

【「行番号追加・削除」】



・これは、前ロールを流す人ではなく、補助役の人が使う機能です。話者が準備した前ロールと違う話をした時、どこに話が飛んだか探すのは困難です。そんな時、前ロールの補助が、飛んだ先を見つけた時、前ロールに行番号が表示されていれば「何行目」と指示できて便利だろうと作りました。前ロール係りは、「ジャンプ」機能で、飛び先の前ロールを探します。

・「追加」ボタンを押すと「追加・削除ロール」で指定した前ロールに行番号を行頭に追加する。

・「削除」ボタンを押すと「追加・削除ロール」で指定した前ロールの行番号の書式チェックを行い、削除する。書式が間違っていると行番号を削除しない。この時「エラー文追加」のチェックが入っていると、行頭に行番号+「【行番号削除エラー】」を追加する。

エラーがあったとメッセージが出た時は、「【行番号削除エラー】」を検索するとその行が判ります。

<ヒント>

前ロールに行番号をつけて表示しておけば、話の内容が飛んだ時に、飛び先を「〇〇行」と指示できます。

また、行番号付で保存し、紙に印刷することもできます。

<書式>

半角。0~99999。0で埋めた4桁の行番をカギカッコで囲む。(例:[0001])。行番が5桁になったら「[」を上書きする。(例:10001)

<注意>

a) 大きな前ロールでは、「追加」ボタン「削除」ボタンは時間がかかります。中断することができないので、現場で緊急時に使うには適していません。事前に行番号を追加した前ロールを準備して読み込む方が速いと思います。

b) 「エラー文追加」のチェックを入れて、行番号が入っていない前ロールで「削除」ボタンを押すと全部の行に「【行番号削除エラー】」を追加してしまいます。これを削除して元に戻すには、1つつ手で削除する必要があります。

【「モニターに送信」】



・「テンプレート前ロール」のカーソルのある前ロールを、カーソル(キャラット)の上2行、下5行を送信します。

・送信する行数は、メインウィンドの「補 W1」ページの「前ロール」の「モニター行数を2倍」チェックを入れると、上4行、下10行になります。

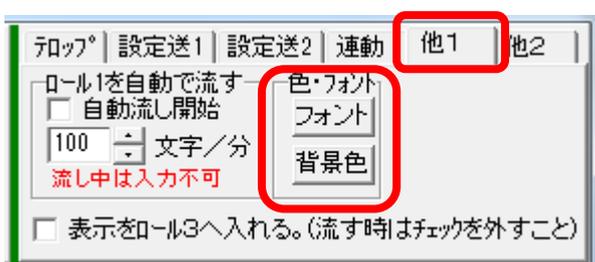
・「班全員に送信」チェックを入れると、入力班全員に送信します。

ます。

・「パートナーのみ」チェックを入れると、パートナーだけに送信します。

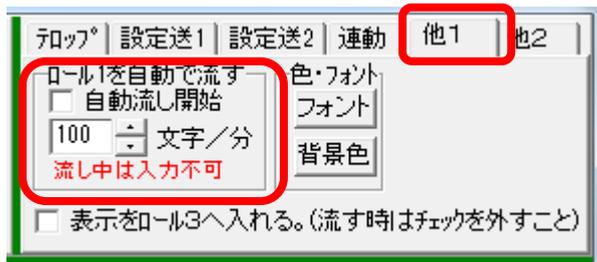
・「自分に表示」チェックを入れると、自分の「テンプレート前ロールモニター」にも表示します。このチェックは、「班全員に送信」チェック「パートナーのみ」チェックと一緒に入れることができます。

【「他1」ページの「色・フォント」】



・「フォント」のボタンを押すと、フォントを指定できます。「背景色」のボタンを押すと、背景色を指定できます

【「他 1」ページの「ロール 1 を自動で流す」】



- ・自動流しのチェックを入れると、指定した速度で前ロール1を流します。流し始めるのはカーソルの位置からです。
- ・チェックを入れると、自分の「表示1」の「改行方法」の「空行のみ改行」のチェックが入ります。
- ・チェックを外すと流すのを止め、チェックを元に戻します。
- ・他のパソコンは、自動では、「空行のみ改行」のチェックが入らない

いのに注意してください。

<ヒント>

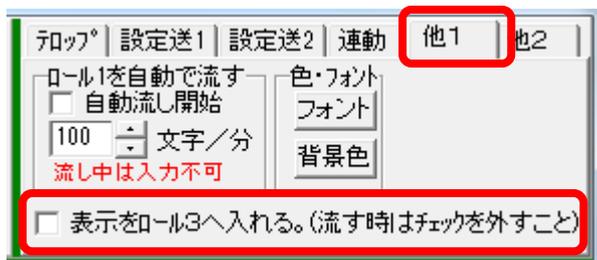
この機能は、情報保障に使うのではなくて練習のために作りました。

1) 200文字/分で文字を表示された場合、それを長時間読み続けるのは、かなり苦痛です。

時間指定して前ロールを流すことで、それを体験することができます。

2) 練習会で、例文を読み上げる速度を100文字/分にしたい場合、練習文を前ロールにして速度指定して流し、それを読み上げることで、簡単に希望の速度で例文を読み上げることができます。

【「他 1」ページの「表示をロール 3 へ入れる」】

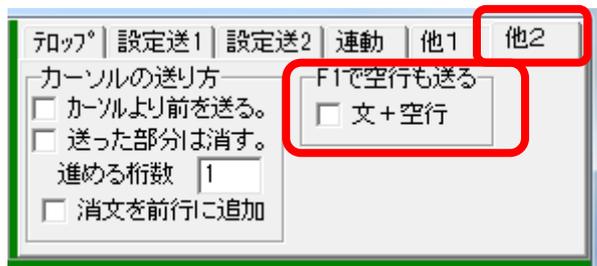


- ・チェックを入れると、表示に流れた文をロール 3 に保存する。
- ・これは、在宅入力で、会場 PC との IPtalk の通信が一時的に不調となり復旧が見込め、かつ、別回線の音声は入力班に届いていて入力を継続できる場合に、一時的に入力をバッファリングし、通信が復旧したらリーダーが表示をまとめて送信するために作った。確認修正パレットで 5 入力までは、保存することができるが、それを

超えるような場合に使用する。一時的な通信の途絶とは、イーモバイルの電波状態による 1~2 分程度で、自然に復旧する。表示エコーバックで会場 PC からの応答が無いために途絶していることが分かる。

・チェックを入れて前ロールを F1 キーで流すと、ロール 3 に前ロールがコピーされる。特に、ロール 3 を流すと、同じ文が追記されていく。前ロールを流す時はねチェックを外すこと。

【「他 2」の「F1 で空行も送る」】

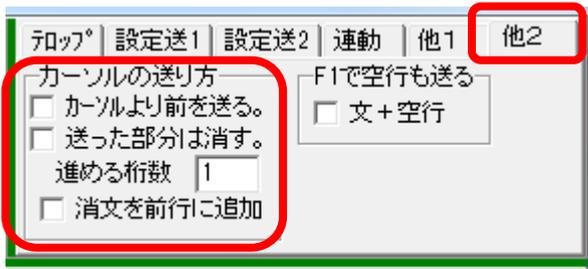


- ・「文 + 空行」チェックを入れると F 1 で送った文の後に空行を追加する。

「メイン」ウィンドの「表示 1」ページの「改行の表示方法」の「空行のみ改行」チェックを入れた時に、前ロールの一行を一行ずつ改行して表示できる。ただし、F1 を押した行が「空行」の場合は、余分な空行は入れない。

つまり、表示機で「空行のみ改行」のチェックを入れている場合に前ロールを流す時は、この「文 + 空行」チェックを入れておくと良い

【「他 2」の「カーソルの送り方」】



- ・F1 キーで前ロールを流した時の動作を指定します。
- ・「カーソルより前を送る」のチェックを入れると、カーソルのある行で、カーソルより前を表示部に送信します。この時、カーソルは動きません。
- ・「送った部分は消す」のチェックを入れると、表示部に送信した部分を消します。

・「自動的に進める桁数」に桁数を入れると、F1キーを押すと、自動的にカーソルが指定桁数進めます。

「カーソルより前を送る」のチェックと、「送った部分は消す」のチェックと、「自動的に進める文字数」の指定の組み合わせると、次のような動きになります。

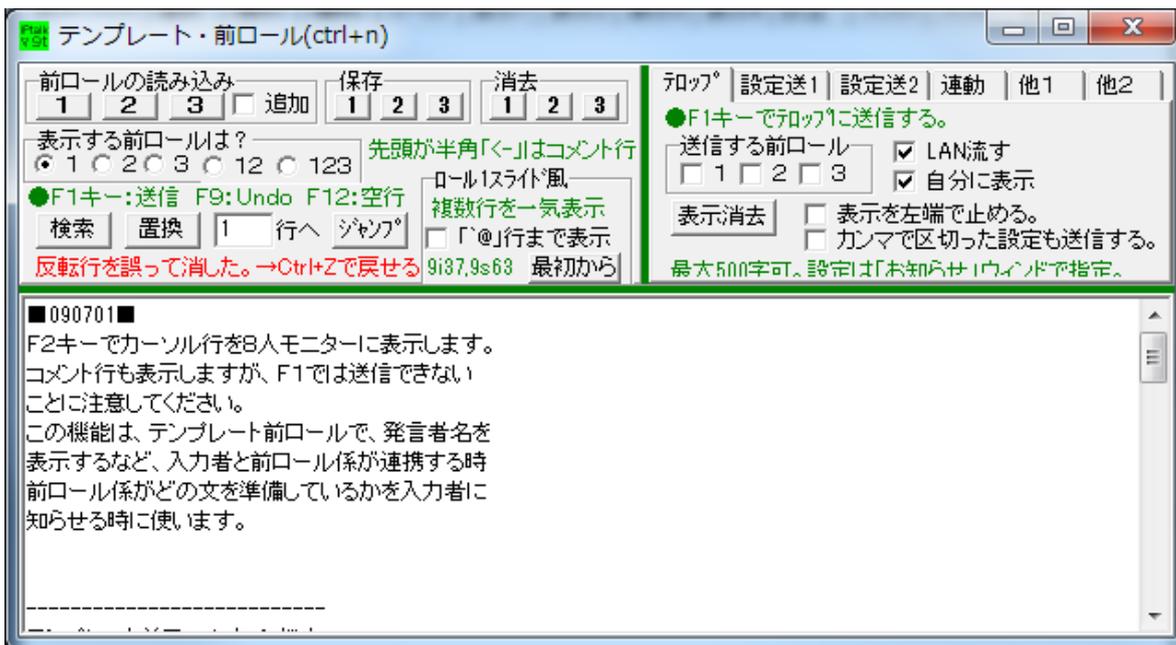
「カーソルより前を送る」チェック	「送った部分は消す」チェック	自動的に進める文字数	操作方法と動作
なし	なし	無効	F1キーを押すと、その行を表示部に送り(その行はそのまま)、次の行にカーソルが移り、ウィンドの文は1行スクロールします。
チェック	なし	無効	矢印キーで、行の途中までカーソルを移動しF1キーを押します。その行のカーソルより前を表示部に送ります。しかし、カーソルは移動しませんし、行もそのままです。スクロールもしません。他の部分を表示部に送りたい時は、矢印キーでカーソルを移動します。
チェック	チェック	1	F1キーを押すと、カーソルより前の文を1文字ずつテロップの様に表示部に送られます。送った文は、消えます。F1キーを押し続けると、指定した桁数ずつ表示部に送られ、行が無くなると次の行に移ります。話す時の「間」が意味を持つような場合、この機能を使うと、文字の表示で「間」を表現する事ができると思います。
チェック	チェック	100 (例)	「自動的に進める文字数」を1行で流すのに十分に大きな数字を指定します。 このようにするとF1キーを押した時に次のような動作をします。 1) 行頭でF1キーを押すと空行が送信され、カーソルは行末に移動します。 2) 次にF1キーを押すと、1行を送信し、その行を消して、カーソルは次の行の行頭に移動します。 つまり、「空行のみ改行」を表示機にしていした場合、空行を入れていない前ロールをF1キーを押すだけで、自動的に行頭で空行を送信することができます。
なし	チェック	無効	F1キーを押すと、カーソルのある行が表示部に送られ、消えます。

【テンプレート前ロールのチュートリアル】

(「保存」ページの「初期値に戻す」のボタンを押してから実習してください。)

・テンプレート前ロールウィンドは、準備した前ロールを修正したり追加して流すのに適しています。ワープロの様にウィンドの中をカーソルで自由に動き回り、文字を削除・挿入したり、行を連結する事ができます。準備した前ロールを雛形(テンプレート)にして入力する事からこの名前を付けました。Fキーで登録できる文字では不足する場合に利用する事ができます。氏名や定型文が多いリアルタイム入力の場合、テンプレート前ロールを入力部のように使う事ができます。(例えば、スポーツ大会の入場行進の実況中継など)「補助W」ページの「前ロール」の「テンプレート前ロール」のボタンを押すと「テンプレート前ロール」ウィンドが開きます。

・下は、9t シリーズの「テンプレート前ロール」ウィンドです。



・使い方は、「原稿前ロール」ウィンドと似ていますが、前ロールを流すのはEnterキーではなくて、F1キーを押します。「前ロールの読込」「表示する前ロールは？」やフォントや背景色の指定は、「原稿前ロール」と同じです。現場で混乱しない様に、原稿前ロールを前ロールA、B、Cとしたのに対して、テンプレート前ロールでは、前ロール1, 2, 3と名前を付けました。

・では、テンプレート前ロールを流してみましよう。

A) テンプレート前ロールを流す

No	操作	操作した時の反応
A1	「補助W」ページの「前ロール」の「テンプレート前ロール」のボタンを押します。 「テンプレート前ロール」ウィンドを移動して表示部が見える様にしてください。	ウィンドが現れます。
A2	F1キーを押して下さい。	カーソル(キャレット)のあった行が表示に流れて、行が1行スクロールする事を確認してください。

A3	↓キーでカーソル(キャレット)を下の行に移動して、もう一度F1キーを押して下さい。	表示へ流した時のスクロールの動作を確認してください。
A4	→キーで、カーソル(キャレット)を行の途中に移動し、F1キーを押して下さい。	行の途中にカーソルがあっても、1行全部が表示に流れる事を確認してください。
A5	→キーで行の途中にカーソル(キャレット)を移動して、Enterキーを押して下さい。	行が分割される事を確認してください。
A6	行に新しい文字を挿入したり、修正してみてください。最後にF1キーを押して、表示に流します。	この時、分割したり、修正した文がそのまま残っている事に注意してください。
A7	F12キーを押すと、空行が送られる事を確認してください。	この時に、前ロールがスクロールしない事に注意してください。
A8	「カーソルより前を送る」のチェックを入れます。	
A9	→キーでカーソル(キャレット)を行の途中に移動させます。F1キーを押します。	カーソル(キャレット)より前が表示に送られ、前ロールはスクロールせず、カーソル(キャレット)の位置もそのままな事を確認してください。
A10	「カーソルより前を送る」のチェックを外します。 「送った部分は消す」のチェックを入れます。 →キーでカーソル(キャレット)を行の途中に移動し、F1キーを押します。	カーソル(キャレット)のある行全体が消えて、表示に送られて、カーソル(キャレット)は次の行に移動する事を確認してください。
A11	この時、Undo(F9キー)してください。	送った文がカーソル(キャレット)のある所に戻って来る事を確認してください。
A12	「カーソルより前を送る」と「送った部分は消す」のチェックを両方入れます。 「この時に自動的に進める桁数」は「1」のままにします。 「表示1」ページの「空行のみ改行」のチェックを入れます。 F1キーを押すと、	1文字づつが表示に送られます。 この時、空行を送らなくても、前ロールの行が変わると表示も改行されている事を確認してください。
A13	「この時に自動的に進める桁数」に半角で「1000」と入力してください。F1キーを押します。	1行づつ表示に送られ、「空行のみ改行」にしてあっても、改行も前ロール通りになる事を確認してください。
A14	「前ロールの読み込み」の1, 2, 3のボタンで前ロールを読み込んでください。読み込める前ロールは、テキスト文です。	
A15	「追加」のチェックを入れて読み込み、前に	

	読み込んだ文の後に追加読み込みされる事を確認してください。	
A16	「表示する前ロールは？」の1, 2, 3のラジオボタンを押して、いろいろな表示ができる事を確認してください。	
A17	「12」と「123」のラジオボタンを押した時に、tabキーでカーソル(キャレット)が各前ロールの間を移動する事を確認してください。	(原稿前ロールの様に、どこにカーソル(キャレット)があるかの表示はありません。)
A18	下の前ロール部との境界をマウスでつまんで移動させてください。	
A19	「表示する前ロールは？」で「123」のラジオボタンを押してから、「テンプレート前ロール」ウィンドの幅を小さくしてください。	前ロール1の枠が小さくなった事を確認してください。
A20	「123」のボタンをもう一度押すと、	各前ロールの幅が均等になる事を確認してください

B) 前ロールの保存

テンプレート前ロールは、修正しながら流していくので、流した後の前ロールは準備したものとは違ってきます。このため、前ロールを保存する機能があります。

	(9iシリーズのみ)	
N o	操作	操作した時の反応
B1	「前ロールの保存」の「1」のボタンを押します。	「名前をつけて保存」のウィンドが現れます。
B2	名前を入力し、「保存」のボタンを押します。	テキストで保存されます。

C) 前ロール1の自動流し

前ロールを指定した速度で自動で流すことができます。サークルなどの練習会で、「100文字/分」などと速度を決めて例文を読み上げる時に使うと便利です。流すのは前ロール「1」です。流し始めるのはカーソルの位置からです。「自動流し開始」のチェックを入れると、自分の「表示1」の「改行方法」の「空行のみ改行」のチェックが入ります。「自動流し開始」のチェックを外すと流すのを止め、チェックを元に戻します。

N o	操作	操作した時の反応
C1	「自動流し開始」のチェックを入れる	「カーソルより前を送る」のチェックが入ります。 「表示1」ページの「空行のみ改行」のチェックが入ります。 1文字ずつ表示に流れて、前ロールは1文字ずつ消えていきます。

C2	「自動流し開始」のチェックを外します。	C1で入れたチェックが元にもどります。 表示が止まります。
C3	流す速度をUpDownで200文字／分に変更します。	「200」文字／分と表示されます。
C4	「自動流し開始」のチェックを入れる	前の二倍の速度で表示に流れます。
C5	「自動流し開始」のチェックを外します。	

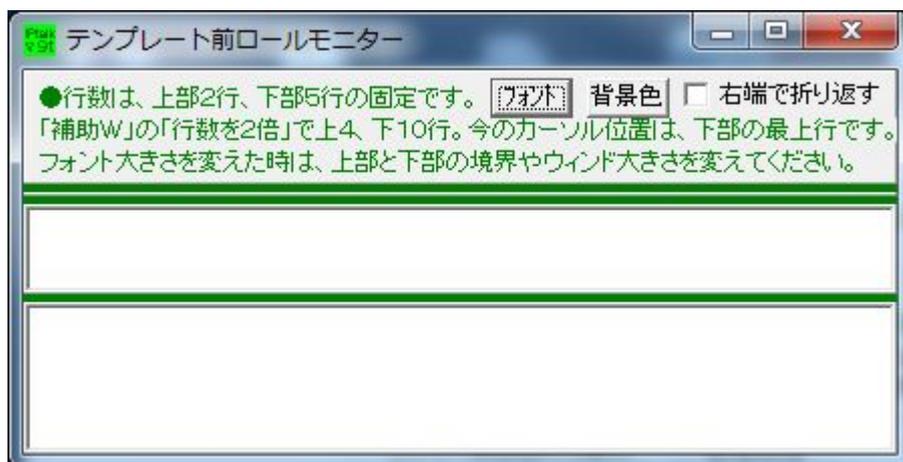
注意 C1	他のパソコンは、自動では、「空行のみ改行」のチェックが入らないのに注意してください
注意 C2	速い速度を指定する流す速度の誤差は大きくなります。

D)テンプレートモニター

テンプレート前ロールには、「連動」の機能もありますが、修正した様子などは分かりません。

「テンプレートモニター」を使うと、前ロールのどの行を流しているかだけではなくて、修正している様子もモニターすることができます。

テンプレートモニターは、「補助W」ページの「前ロール」の「テンプレート前ロールモニター」のボタンを押すと表示されます。(下図)



・テンプレート前ロールモニターは、上中下 3 段できていて、「テンプレート前ロール」のモニターは中段と下段です。上段は、遠隔入力の際の「表示エコーバック」です。表示行数は、中段が2行、下段が5行の固定です。メインウインドの「補 W1」ページの「前ロール」の「モニターの行数を2倍」チェックを入れると中段が4行、下段が10行になります。下の段の1行目に、今流そうとしている行が表示されます。・モニターに流す人は、「テンプレート前ロール」の「モニターに送信」の「班全員に送信」か「パートナーのみ」のチェックを入れます。

・実際にやってみた方が分かりやすいので試してみましょう。

まず1人でやってみます。

No	操作	操作した時の反応
D1	「補助W」ページの「前ロール」の「テンプレート前ロール」のボタンを押します。	「テンプレート前ロール」ウィンドが表示されます。 (以下、「前ロール」と表記)
D2	「補助W」ページの「前ロール」の「テンプレート前ロールモニター」のボタンを押します。	「テンプレート前ロールモニター」ウィンドが表示されます。 (以下、「モニター」と表記)
D3	「テンプレート前ロール」ウィンドの「モニターに送信」の「自分に表示」のチェックを入れます。	
D4	「テンプレート前ロール」ウィンドの前ロールのカーソル(キャレット)を矢印キーで移動させてみます。	「モニター」に前ロールが表示されます。カーソルのある位置は、下の段の一行目に表示されることに注意してください。
D5	前ロールを修正します。	修正しているところが、「モニター」に表示される
D6	「モニター」のフォントボタンを押して、文字を大きくします。	「モニター」の文字が大きくなっても、枠が自動的に大きくならないことに注意してください。
D7	「モニター」の大きさと上段と下段の間の境界を動かして、文字が表示されるように調整します。 「前ロール」のカーソルを動かして、見やすいように調整します。	
D8	「モニター」ウィンドの横幅を小さくして、一行が横にはみだすようにします。	行末が表示されていないのに注意してください。
D9	「モニター」ウィンドの「右端で折り返す」のチェックを入れます。	「モニター」の上段の行が増えて、はみ出していた行末が改行されて表示されます。

「モニターに送信」の「自分に表示」は、他の人のモニターにどんな風に写っているかを確認するためにあります。

・では、次は、3台で試します。

AさんとBさんは、パートナーになります。

No	操作	操作した時の反応
D10	Aさん、Bさん、Cさんとも、「前ロール」と「モニター」を表示します。 「モニターに送信」の3つあるチェックは、全て外します。	
D11	AさんとBさんは、パートナーになります。	

D12	Aさんは、「モニターに送信」の「班全員に送信」のチェックと「自分に表示」のチェックを入れ、「前ロール」のカーソルを動かします。	Bさん、Cさんの「モニター」に表示されることを確認します。 Aさんの「モニター」の表示は、Bさん、Cさんと同じであることを確認してください。
D13	Aさんは、「班全員に送信」のチェックを外し、「パートナーのみ」のチェックを入れて、「前ロール」のカーソルを動かします。	Bさんの「モニター」には表示されますが、Cさんの表示は動かないことに注意してください。 Aさんの「モニター」には、自分の動きが表示されます。
D14	Bさんが「パートナーのみ」のチェックを入れて、「前ロール」のカーソルを動かします。	Aさんの「モニター」に表示されますが、Cさんの表示は動かないことに注意してください。
D15	Aさん、Bさんが同時にカーソルを動かします。	Aさんの「モニター」には、Bさんの表示が、 Bさんの「モニター」には、Aさんの表示が出ることを確認してください。 Cさんの「モニター」は動きません。 この時、Aさんのモニターは、Bさんの動きと自分の動きが交互に表示されるので、見難い表示になっていることに注意してください。
D16	Aさんは、「自分に表示」のチェックを外します。 Aさん、Bさんが同時にカーソルを動かします。	今度は、Aさんの「モニター」は、Bさんの表示のみが出るので、見やすい表示になっているのを確認してください。
D17	次に、Aさん、Bさんとも、「パートナーに送信」のチェックを外し、「班全員に送信」のチェックを入れます。	
D18	Aさんが、「前ロール」のカーソルを動かします。	Bさん、Cさんの「モニター」の表示が動きません。
D19	Bさんが、「前ロール」のカーソルを動かします。	Aさん、Cさんの「モニター」の表示が動きません。
D20	Aさん、Bさんが同時にカーソルを動かします。	Aさんの「モニター」には、Bさんの表示が、 Bさんの「モニター」には、Aさんの表示が出ます。 しかし、Cさんの「モニター」は、Aさんの表示とBさんの表示が交互に表示されるので、非常に見難い表示になることを注意してください。

このように、「班全員に送信」のチェックを入れて、複数の人が同時にカーソルを移動させると、見難い画面になります。しかし、誰かがいじっているというのが分かるので、このことを承知して使うこともできます。

モニターに送信するタイミングは、前ロール上でキー操作をした時。マウスやtabキーで前ロール間を移動した直後はモニターに反映されていない事に注意してください。

E)F1キーでテロップに送信

前ロールを「お知らせウインド」テロップに送信することができます。「F1キーでテロップに送信」の「1」「2」「3」にチェックを入れると、その前ロールでF1 キーを押すと、表示部ではなくテロップに送信されます。「カーソルより前を送る」のチェックや「送った部分は消す」のチェックも同じように動作します。「自分に表示する」のチェックを入れると、自分だけにテロップ表示します。「他の人に送信する」のチェックを入れると、同じ入力班の人に送信します。テロップの設定は、「お知らせ」ウインドで事前に設定しておきます。

・では、「自分に表示する」のチェックを入れて、自分に表示させて試してみましょう。

No	操作	操作した時の反応
E1	「テンプレート前ロール」ウインドの「F1キーでテロップに送信」の「1」のチェックと「自分に表示する」のチェックを入れます。 「前ロール」でF1 キーを押します。	F1キーを押した行がテロップで表示されます。
E2	カーソル(キュレット)を行の途中まで進めて、F1 キーを押します。	1行全てがテロップ表示されたことに注意してください。
E3	「カーソルより前を送る」のチェックを入れます。 カーソル(キュレット)を行の途中まで進めて、F1 キーを押します。	カーソルより前の部分だけが、テロップ表示されたことに注意してください。
E4	「送った部分は消す」のチェックを入れてください。 カーソル(キュレット)を行の途中まで進めて、F1 キーを押します。	カーソルより前の部分が消えて、消えた部分だけが、テロップ表示され、たことに注意してください。 また、カーソルは、自動的に1文字右に移動しています。
E5	「F1キーでテロップに送信」の「1」のチェックを外します。 カーソル(キュレット)を行の途中まで進めて、F1 キーを押します。	テロップではなくて、表示部に表示されたことに注意してください。

「他の人に送信する」のチェックを入れて同じ操作をすれば、他の人にも同じように表示されます。

【9t シリーズでの更新履歴】

070419/IPtalk9t0_12

8)「テンプレート前ロール」の「他2」ページに「F1で空行も送る」「文+空行」チェックを追加した。チェックを入れるとF1で送った文の後に空行を追加する。「空行のみ改行」にした時に、前ロールの一行を一行ずつ改行して表示できる。

070422/IPtalk9t2

4)「テンプレート前ロール」の「他2」ページに「F1で空行も送る」「文+空行」チェックを「空行の時以外」でF1で送った文の後に空行を追加するようにした。前ロールの空行で、空行が2行表示されるため

070812/IPtalk9t9

1)テンプレート前ロールが連動スクロールしない不具合の対策。

この不具合は、9t1～9t8 で、従来テンプレート前ロールの連動に割り振ってあった 6720 番ポートを原稿前ロールの連動に割り振ってしまったためです。このため 9t1～9t8 の原稿前ロールは、9i のテンプレート前ロールと連動しました。9t1～9t8 のテンプレート前ロールの連動は動作しませんでした。9t9 以降は、次のとおりです。

9t9 以降のテンプレート前ロールは、9i と 9t9 以降のテンプレート前ロールと連動します。9t9 以降の原稿前ロールは、9g と 9t9 以降の原稿前ロールと連動します。

080304/IPtalk9t28

1)「テンプレート前ロール」ウインドの「設定送 1」タブの「背景画を送信」「デスクトップのカバーを送信」の「画を送信」のチェックと「html(URL)送信」のチェックを、パートナーを指定していなくてもチェックが入るようにした。1 台で「背景画の送信」などの表示チェックができるようにした。

090909/IPtalk9t49

12)「テンプレート前ロール」ウインドで、F2キーを押すと、カーソル(キャレット)のある行を、入力部に転送する。これにより、メンバーの8人モニターに表示して、次に流す文を示すことができる。コメント行も表示するが、F1では送信できないことに注意してください。この機能は、テンプレート前ロールで、発言者名を表示するなど、入力者と前ロール係が連携する時前ロール係がどの文を準備しているかを入力者に知らせる時に使います。

100427/IPtalk9t58

6)「テンプレート前ロールモニター」を3段にして、「下段」に表示していた「表示エコーバック」を一番上の段に表示するようになった。

110811/IPtalk9t62

17)「テンプレート前ロール」ウインドの「その他1」に「表示をロール3に入れる」チェックを追加した。

チェックを入れると、表示に流れた文をロール3に保存する。これは、在宅入力で、会場PCとのIPtalkの通信が一時的に不調となり復旧が見込め、かつ、別回線の音声は入力班に届いていて入力を継続できる場合に、一時的に入力をバッファリングし、通信が復旧したらリーダーが表示をまとめて送信するために作った。確認修正パレットで5入力までは、保存することができるが、それを超えるような場合に使用する。一時的な通信の途絶とは、イーモバイルの電波状態による1～2分程度で、自然に復旧する。表示エコーバックで会場PCからの応答が無いために途絶していることが分かる。